

レジリエント建築TF：2020年6月3日

変容する自然災害への対応WG

京都大学防災研究所 西嶋一欽



変容する自然災害

極端化する自然現象が建築ストックの弱点を顕在化させている

極端化する気象現象：台風（強風、豪雨）、竜巻

気候変動将来予測ではさらなる台風の強大化の可能性



現行の設計では明示的に考慮していない作用による被害が拡大

変容する自然災害対応WG

- ・ 建築としての対応可能性と優先順位を明確化
- ・ 対応を実現するための活動を実施する体制を学会内に構築

迅速な補修による
事後対応

レジリエントな建築ストックの形成

設計/改修による
事前対応

WG設置申請書（抜粋）

● 直上委員会の活動目的と新設WGの活動目的

レジリエントな建築ストックの実現を目標として、近年頻発している極端気象現象により顕在化している建築物の設計時に考慮されていない外乱や作用による被害に対して、建築的な視点からの対応可能性を検討し、対応可能なものに関してはその実現に向けた活動を実施するための体制を構築する。

● 活動計画

1年目：近年頻発している極端気象現象により発生した、建築物の設計時には陽に考慮されていない外乱や作用による被害事例とそのような被害事例に対する既往の調査研究を整理する。これらの整理に基づいて、建築的視点からの変容する自然災害への対応に関する公開研究会の準備を行う。

2年目：上記公開研究会を実施する。公開研究会での議論も踏まえ、変容する自然災害に対する建築的対応の社会的実現を目標とする常置委員会の設置準備を行う。

● 主査

西嶋一欽 京都大学防災研究所